

ホーム名：くみのき苑グループホーム千寿

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・「認知症になっても、一人ひとりが地域の中で当たり前暮らしながら、人間の尊厳を大切に生きていく」を理念に掲げている。入居者様に「自分らしく生きてもらう。自分を好きになってもらう。」事を目標に、職員同士話し合いケアに繋げていく様に努めている。			
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	・自治会に入り、地域行事に積極的に参加させて貰っている。入居者様が参加できる行事の場合は、入居者様と一緒に参加している。また、近隣のスーパーに買い物に行く機会を作る様にしている。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・河内長野市のキャラバンメイトとして、河内長野市の認知症への理解を広げる活動にも参加している。今年度はいきいきフェスタやRUN伴、認知症ソフトボール大会の参加等入居者様と一緒にいった。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・会議で出した意見は、会議後、各階の常勤と相談したり、法人本部の上司などとも相談し検討させて貰っている。要望で出来ない場合は、個人的に意見下さった方へ、返答の報告を入れている。			
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	・何か事業所で分からない事や困った事は、すぐに市役所に連絡している。市役所の方々も、すぐに調べて返答を下さる。			
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	会議にて身体拘束をしないケアについての研修で学び、現場で取り上げ実践している。入居者様には、自由に行き来して頂ける環境作りを行っており、エレベーターは日中、施錠等なしで行き来できる。また、入居者様の身の安全を守るための、無線ペットセンサーを使用し(個人購入分)身体拘束をしない支援・実践を行っている。			
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所などでの虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・全国の事件、事故に関しては、上司より掲示あり。回覧にて職員全員必ず目を通す。身体だけでなく言葉による虐待についても「何かおかしい」と思った時は、常に声掛けを行い注意し防止に努める。			

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>・権利擁護に関する資料があり職員がいつでも閲覧が出来る様になっており周知を行っている。成年後見制度に関しては、入居者様に利用されている方もおられる為、制度についての理解を行っている。会社も研修を行なっている。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>・今まであった家族様からの疑問や不安を聞いた事を踏まえて、説明する様に努めている。ただし、細かく説明し過ぎて、逆に家族様に伝える量が多く、理解しにくくさせている事もあるのではと思う。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・各階意見箱を設置している。利用者・家族様からの意見や要望を全員で周知出来る様に、各階の常勤に伝え、どうしていくか話し合い取り組む様に努めている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>・半年に1回人事評価面接実施している。その際に、評価以外に職員の話聴く時間を持っている。また、職員の様子が違う時や周りの職員からの情報を聞いた際は、個人的に、話を持つ様にしている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>・人事評価面接時にひとりひとりの評価を行い、賞与に反映させている。職員と話した際に出た意見を基に、業務改善を行うなど職場環境を整えるように努めている。</p>	
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>・法人本部で定期的に研修を開催しているが、職員数が少ない時などがあり、毎回参加するのは難しい現状がある。その為、月1回勉強会を実施。研修に参加した職員が他職員に研修内容を伝える機会や、外部講師を招き勉強する機会を設けている。</p>	
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>・グループホーム部会を通じて、他事業所との職員の交換研修や、勉強会を行い、交流や意見交換の場を作っている。</p>	

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所後、ご本人様の不安軽減に努めるために、しっかりと向かい合いゆっくと関わる時間を持つ。安心して頂ける環境作りや想いを少しでも汲み取らせて頂けるような関係づくりに努めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所前の施設見学や入所時以降でご本人様やご家族より困っておられる事、不安な事、要望等を伺い話し合いができる時間を作らせて頂いている。又、家族様には本人様の様子を定期的に電話にてお話させて頂いている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人様やご家族様からの情報は個人別センター方式に記入し、まとめている。職員は情報共有し、対応に活かせるように努めている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>入居者様それぞれの所持能力を見極め、こちらからの一方的な介護、援助にならない様に心掛けている。しかし、職員の都合により一方的になっている事も有り、現場や会議にて話し、入居者様の為の援助が出来る様指導している。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>本人様やご家族様の気持を大切に、職員は想いを汲み取り対応出来る様努めている。面会時には日常の様子や状況を報告し、安心して頂いている。又、家族会や遠足等一緒に過ごせる機会を作っている。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>本人様や家族様より情報を集め、入居者様のご友人の方が面会に訪れられたり、手紙や年賀状のやり取りにて疎遠にならないような支援を行っている。また、施設外での病院受診においても必要に応じて継続し、馴染みのドクター、場所での関係性を大事にしている。</p>		
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>入居者様同士の関係は理解できており、リビングにて仲の良い方同士で話されたり、その方の居室へ訪問して頂けるような配慮を行い対応させて頂いている。その一方、職員が事前に対応ができていない事で、トラブルもあり、口論になることも少なくない。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>医療機関等の入院により、残念ながら退所になられた方へも、面会やお見舞いを通じて、以前と変わらない関係性を大切にしている。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様との日々の関わりの中で、訴えや希望を理解できるように努めている。しかし、職員の対応も十分でない為、思いや希望の把握がしきれていない事もある。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	ご家族様や本人様から情報収集し、個別のセンター方式に記入している。職員間の情報共有に使用し、日々の関わりに活かして行く様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の状況、様子を毎日の日誌に記入し、職員間で情報共有している。しかし、職員の観察能力の違いはあり、現場での申し送り等で補っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様や家族様の意見・要望を伺い、月二回のユニット会議を実施。チームで話し合いを行い、ケアプランを作成している。本人様の状態変化により、見直しも行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の個別ケース記録は、毎日実施しているが、職員によっての気付きや工夫について差が見られる。日々の関わり方や視点等説明し記録できるように指導していく。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当法人内の行事や他施設からの行事に可能な限り参加している。入居者様のニーズに沿った支援が出来るよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の協力もあり、地藏盆祭りや秋祭り等参加させて頂いている。又、施設周辺の溝掃除等にも参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時かかりつけ医について、ご本人様・ご家族様に説明を行い訪問診療を希望される方へは、青山クリニックをかかりつけ医としている。以外で外部の病院を希望がある際は、職員は付き添い対応を行っている。		

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>看護師は月～土まで1階デイにて常時居る為、日々の入居者様の状態や変化を報告し、相談や指示を仰ぎ、支援している。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院された際は、家族様からの情報提供や医療機関と連携を図り、本人の状況を把握する。病院でのカンファレンスに参加し可能な限り早期で退院できるよう病院関係者・ご家族様との情報交換や必要性についての話し合いを行っている。</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居者様のADLの低下や日々の体調、状況の変化について、ご家族様の面会時や電話にて報告を行っている。重度化については、家族様との話し合いの中で決めて取り組んでいる。終末期ケアについて、職員が十分理解できていない事もあり職員間の話し合いや指導が必要である。</p>		
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急対策マニュアルを設置し職員全員に周知している。会議や個別に説明しているが、職員により実践できる力に差がある現状である。</p>		
35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年に2回、消防の方の協力のもと消防避難訓練を実施している。訓練時に全スタッフに水消火器での消火訓練を実施している。</p>		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>入居者様1人ひとりの人格の尊重やプライバシーの確保について、理解はしているが、実際は配慮に欠けた声掛けや対応になっている事もあり、その都度注意・指導を行っている。</p>		
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>入居者様に対して、自己決定や自己選択して頂ける様な対応・声掛けを行っている。しかし、職員の都合により対応していることが多くみられる。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>職員の都合で動いている事も多く、業務が優先となっていた為、業務改善にて入居者様と関わる時間を多く持たせて頂くように現在している。精神面での不安の軽減支援の大切さについても指導を行っている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>毎日の静養や更衣時にその方に合った身だしなみやおしゃれを支援させて頂く。職員により決めつが見られる事もあり、その都度職員と話をしている。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事作りについて、現在配食サービスを利用している。包丁を持つことは無くなったが、みそ汁や盛り付けと一緒に共同作業を出来るように努めている。後片づけや食器洗いも出来る方と一緒にしている。</p>		
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>入居者様個人のケース記録や排泄表、申し送りにて食事量や水分量の把握を行っている。その方の状態に合わせミキサー食やとろみをつけ支援を行っている。食事量の少ない方には、高カロリー食品やドリンクを個人購入して頂き、栄養補給して頂いている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>口腔ケアの実施について、毎食後声掛けや、誘導・促しにより口腔内の清潔保持に努めている。毎週水曜日に訪問診療があり、入居者様の治療・口腔ケアの他、必要に応じてアドバイスを頂き支援を行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>入居者様の排泄パターンを観察・把握させて頂いており、個々にあった排泄方法・誘導時間・声掛けにより対応・支援を行っている。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>食事のメニューでの便秘予防やヨーグルト等食品により排泄に繋がるよう支援している。又、ラジオ体操等適度な運動や排泄時の姿勢も職員間で話し合いし、提供している。必要に応じては看護師へ相談のもと下剤服用して頂き対応・支援を行っている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴して頂くタイミング・時間については可能な限り希望の時間帯やその時の体調・様子に合わせて実施できるように努めている。入浴されていない日が空いている方から声掛けや促しを実施し対応を行っている。</p>		

46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>フロアのリビングや廊下にソファを設置し、居室内の空間だけでなく、ゆったりとくつろいで頂けるスペースを設け対応を行っている。</p>		
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や薬領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>入居者様の服用されている薬や効果についての一覧表を作成している。また、薬の効果や形状もわかる様に明記されており、すぐに確認出来る様になっている。看護師に少しの体調の変化であっても報告し、指示を仰ぐように指導を行っている。</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>入居者様の趣味や特技を活かした関わりを実施しているが、十分な時間が作れず、入居者様へ対してこちらの押しつけになっている事も少なくない。支援の大切さや生きがいについての尊重に努めていきたい。</p>		
49	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>買物(散歩等)、本人様より希望があれば可能な限り時間を作らせて頂き対応を行っている。家族と一緒に外出されるケースもあり、安心して外出が出来る様に、注意点等をご家族様にお伝えさせて頂く支援も行っている。</p>		
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>1名の方でお金の所持をされておられる。買い物等で所持金を使って頂ける場面をつくり、ご本人様よりお金の出し入れも行って頂いている支援をしている。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族や親戚また、ご友人からの手紙や年賀状での継続的支援については希望により行っている。</p>		
52	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビングや廊下に季節に応じて、装飾品を入居様と一緒に作成し、季節感を出し入居者様の目の届く位置・場所にて装飾を行っている。またリビングには、入居者様が描かれた絵を飾らせて頂いており、本人様がフロアの席に座られた際も見える位置にて、大変喜ばれている。又、テーブルに季節の花を、入居者様に生けて頂き、季節を感じて頂いている。</p>		
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>フロアのリビングや廊下にソファを設置し、居室内の空間だけでなく、ゆったりとくつろいで頂けるスペースを設け対応を行っている。また、気の合う入居者様同士が、話が出来るといった環境作り提供を行っている。</p>		
54	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居者様の各居室には、家族様との相談の上、可能な限り本人様にとっての馴染みの家具や物品をご持参頂いている。また、ご家族様との写真や千寿でのご様子写真を掲示し淋しい思いにならないような工夫も実施している。</p>		
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>入居者様の所持機能を活かした介助や関わりについては全職員理解できているが、こちら都合により本来出来るようなことでも奪ってしまい対応を行っている事がある。入居者様が安心の見える見守り方法や援助について指導・改善していく。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者として ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は活き活きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない